

令和6年度第三者評価 改善状況報告書

令和7年3月31日

施設名	港区立台場高齢者在宅サービスセンター（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区台場1-5-5	指定管理者	医療法人財団 百葉の会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 （共同事業体の場合記入）	令和7年3月までの改善状況等 （指定管理者記入欄）	令和7年4月以降の取組予定 （指定管理者記入欄）	所管課確認欄 （施設所管課記入欄）
職員の残業について、新人職員が慣れない仕事をする時やイベント前に多くなる傾向が見られる。このため、人材育成チームを作り、プリセプター育成による新人育成の効率化や職員の残業の事前申請制度の導入等により残業削減に一定の成果を上げている。 現在、施設では風通しの良い職場環境が構築され、職員が分からない事を教え合ったり、ベテラン職員がアドバイスを気軽に言う風土があり、相談しやすい環境づくりが進み、仕事の効率化が進んでいる。 今後は、職員が「報連相」を途中で止めることによるコミュニケーション不足の解消が望まれる。		職員一人ひとりが意識して声を掛け合う行動を行った。 声を掛け合う中でも、伝え切れないことに対してルール作りを行い、見える化によって改善に努めている。 仕組み上のルールが多くなり、かえって行動しにくくなることが起きているようにも感じるため、引き続きの改善が必要と考えている。	新入職員3名が入ることから、人材育成チームによるプリセプター育成によって、OJTシートも活用しながら、報告・連絡・相談の重要性を共有するなど、着実な人材育成に取り組んでいく。	前年度、職員間の声かけやルールの見える化による連携強化、人材育成チームによる新人支援体制の整備など、職場環境の改善に積極的に取り組んだ点が評価できる。残業時間の縮減にも一定の成果が見られた。 今年度は、報連相の徹底とルールの簡素化による実効性の向上を図り、より円滑な業務遂行と職員の働きやすさの両立に期待する。
近隣に幼稚園と保育園があり、デイサービスに来所してもらい、子どもたちとの多世代交流の機会を持っている。 また、利用者が幼稚園を訪問し、園児たちと触れ合う機会も設けている。 3月には毎年恒例となっている雑巾をプレゼントする予定。さらに、お台場ユーキャンやレクリエーションなど、講師として地域住民が協力してくれている。 一方、ボランティアの受け入れ数は、コロナ禍以前のレベルには達していない。ボランティアの参加促進のため、地域の関係者と協力して取り組まれることが望まれる。		今年度も近隣の幼稚園と保育園に手作りの雑巾をプレゼントした。 ボランティアの受入数も増加傾向である。	11：30～13：30の昼食時や保安時において、職員が利用者に対し十分なケア（食事介助、内服、口腔ケア、排泄介助等）ができるよう、4月からシルバー人材センターに協力いただき、配膳準備から下膳後の整理整頓まで行っていただく予定。 こうした取組によって、十分なケアができる人員と時間を確保していく。	近隣の幼稚園・保育園との交流や雑巾の寄贈、地域住民による講師協力など、地域とのつながりを大切にした取組が継続されており、地域福祉の推進に貢献している点が評価できる。 今後は、シルバー人材センターの活用による昼食時のケア体制の強化によって、より丁寧なサービス提供が期待できる。また、コロナ禍以前の水準を目標としたボランティア受け入れの促進への取組についても期待する。
お台場ユーキャンやレクリエーションを実施している。 プログラムは、利用者の心身の活性化を図る目的で、事業所にとっては大切な活動である。プログラムへの参加は自由で、利用者は自分の好きな活動に参加している。 利用者によっては、複数の活動に参加することもある。提供するプログラムは職員の担当制としており、利用者には選ばれるよう企画、運営に努力している。 一方、多様なニーズに対応できるプログラムの開発を課題と振り返っている。利用者に喜ばれ、選ばれるプログラム開発を更に進めることが望まれる。		来年度に向けた取組について、職員間で話し合いを実施した。	季節に合った外出機能訓練や曜日対抗レクリエーションなど、新たなプログラムを取り入れていく。 利用者の反応を確認しながら、今後も選ばれるプログラムを企画し、実践していく。	職員間での話し合いを通じた改善意識の醸成や、利用者の反応を踏まえた新たなプログラムの導入など、利用者本位の運営が進められた。曜日対抗レクリエーションや外出機能訓練などの工夫も見られる。 今年度は、多様なニーズに応えるプログラムの新たな開発によって、継続的な満足度の向上につながることを期待する。